岡山から世界に、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学

OKAYAMA
UNIVERSITY

# 令和９年度採用分

## 特別研究員DC申請書書き方説明会



**2026年3月５日15：00～**

オンライン開催（ZOOM）

担当：研究協力課

# 学振の特別研究員制度（DC1.2）とは

OKAYAMA UNIVERSITY

①日本学術振興会が優秀な博士後期課程の学生を認定・雇用する「特別研究員」制度のこと。**博士課程在籍中の学生にとって、最も名誉あるフェローシップの一つとされる。**

毎月約20万円の奨励金と年間最大150万円の研究費が支給され、研究に専念できる環境が得られる。**令和8年度新規採用者から支給額が200,000円から227,000円に増額される予定です**。申請時期によりDC（Doctoral Course）1（博士1年から3年間）とDC2（博士2年または博士3年から2年間）に分かれる。

②キャリアの強み：採用されること自体が優れた研究能力の証明（トップレベルの若手研究者）となり、アカデミアでの就職に非常に有利。民間企業への研究職として就職する場合も有利。

- 【DC1申請者数】

| 書面合議審査区分 | 人文学 | 社会科学 | 数物系科学 | 化学 | 工学系科学 | 情報学 | 生物系科学 | 農学・環境学 | 医歯薬学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 438 | 487 | 755 | 484 | 834 | 398 | 482 | 442 | 639 |
| 男 | 251 | 271 | 661 | 416 | 696 | 340 | 315 | 292 | 411 |
| 女 | 187 | 216 | 94 | 68 | 138 | 58 | 167 | 150 | 228 |

申請者合計：4,959名（男3,653名／女1,306名）

- 【DC2申請者数】

| 書面合議審査区分 | 人文学 | 社会科学 | 数物系科学 | 化学 | 工学系科学 | 情報学 | 生物系科学 | 農学・環境学 | 医歯薬学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 718 | 778 | 928 | 665 | 1416 | 630 | 592 | 743 | 974 |
| 男 | 364 | 362 | 795 | 519 | 1187 | 525 | 368 | 475 | 599 |
| 女 | 354 | 416 | 133 | 146 | 229 | 105 | 224 | 268 | 375 |

申請者合計：7,444名（男5,194名／女2,250名）

- 【DC1採用者数】

| 書面合議審査区分 | 人文学 | 社会科学 | 数物系科学 | 化学 | 工学系科学 | 情報学 | 生物系科学 | 農学・環境学 | 医歯薬学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 62 | 66 | 109 | 68 | 120 | 57 | 70 | 64 | 92 |
| 男 | 39 | 35 | 95 | 56 | 93 | 49 | 44 | 39 | 60 |
| 女 | 23 | 31 | 14 | 12 | 27 | 8 | 26 | 25 | 32 |

採用者合計：708名（男510名／女198名）、採用率14.3%

- 【DC2採用者数】

| 書面合議審査区分 | 人文学 | 社会科学 | 数物系科学 | 化学 | 工学系科学 | 情報学 | 生物系科学 | 農学・環境学 | 医歯薬学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 106 | 115 | 140 | 99 | 202 | 86 | 91 | 111 | 142 |
| 男 | 59 | 57 | 120 | 75 | 176 | 74 | 64 | 78 | 90 |
| 女 | 47 | 58 | 20 | 24 | 26 | 12 | 27 | 33 | 52 |

採用者合計：1,092名（男793名／女299名）、採用率14.7%

# ■令和９(202７)年度申請スケジュール

2026年
令和8年　3月

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5<br>DC説明会 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |
| | | | | | | |

2026年
令和8年　5月

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8<br>PD･DC:津島地区事務チェック締切 | 9 |
| 10 | 11<br>学振:RPD締17:00 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26<br>12時PD･DC津島学内提出締 | 28 | 28<br>PD･DC他地区締 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |

①【申請希望およびＩＤ・パスワードの発行依頼】を提出
②ＩＤ・パスワードの取得
③申請書の作成
④申請書の事務チェック依頼（５月８日まで）
⑤申請書の修正および電子申請の完了

# 1.申請書を書く前の準備

①指導教員に評価書を書いていただく必要があるため、前もって学内締切等を先生に伝えておく。→できれば学士在学中から、先生に博士課程に進む意向を伝えておくと〇。

②スケジュールカレンダーを見て余裕をもって作成を行う事、大学が設定している提出期限を厳守すること。学振の締切日より、大学設定の締め切り日を守ってください。

※学振の募集要項にも、「申請者は申請機関（大学）が指定する期限までに申請書を提出してください」と記載

③申請までにたくさんの論文を書いておく。ジャーナルに掲載されなくても、投稿中でも可。

④DC1・DC2の申請資格を確認する。

採用時において博士課程の在学月数の申請資格を満たしているか。

博士後期課程と医学、歯学、薬学系の４年制の博士課程では在学月数が異なる。

※複雑なので募集要項をよく読んでください。

# 2.事務チェックの際に指摘されるよく間違える点

①必ず、最新の申請年度の様式を使用すること。去年の物を使わない。

※大幅に変更になっている場合もありますし、一見同じように見えても、上部枠内の文言の一部のみに変更がある場合があります。

・「申請書」はWEB入力、「申請内容ファイル」はワード様式になりますので、ご注意ください。

・【申請内容ファイル】ワード様式、右下の「申請者登録名」を入力してください。フッターにあたる部分です。事務チェック依頼時、未入力が散見されます。

ヘッダーがずれて、必要な箇所に表示されていないとか、次のページに表示されていたりしないか。フッターがずれて、ページ番号がずれていないか。

.

# よく間違える具体例



（申請書情報）　令和９年度採用分　特別研究員－ＤＣ　申請書　第　　版

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 審査区分 | ①申請資格 | ＤＣ | 受付番号 | |
| | ②書面審査区分 | | | |
| | ③小区分名 | | | |
| | ④小区分コード | | ⑤専門分野 | |

| | |
|---|---|
| ⑥研究課題名 | |

○○大学

【１】申請書情報　（申請機関コード：　　）

| | | |
|---|---|---|
| ⑦氏　　名 | （フリガナ）<br>登録名 | |

| | |
|---|---|
| ⑧学　　歴<br>（学部・修士） | 1.　　年　　月　　大学　　学部　　学科卒<br>2.　　年　　月　　大学大学院修士課程入学<br>（　　研究科　　専攻） |
| ⑨博士の状況 | 1. 入学年月：（西暦）　　年　　月　編・転・再入学<br>2. 編・転・再入学時の在学期間換算：　　年　　ヶ月<br>3. 大学院名：<br>4. 研究科名：<br>5. 専攻名：<br>6. 課程種別：<br>7. 休学期間合計：　　年　　ヶ月<br>8. （西暦）2027 年 4 月 1 日時点における博士在学期間累計（休学期間を除く）：　　年　　ヶ月 |
| ⑩研究・職歴等 | 1.　　年　　月　～　　年　　月<br>2. |
| ⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙： | |

見本

現在、修士課程に在学中の方は、作成要領にあるように入学年月日のみ入力し、終了年月は入力しない。

学生証の入学年月に齟齬が無いか。DC1 or DC2　の申請資格に誤りがないか。

所属（予定）研究科の名称を入力してください。「学術研究院〇〇」という名称は先生の所属ですので書かないこと。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑪現在の研究指導者に関する特記事項の有無 | | | | |
| | （現在の研究指導者に関する特記事項） | | | |
| ⑫現在の研究指導者 | （フリガナ）<br>氏　　名 | | 職名 | |
| | 研　究　者　番　号 | | | |
| | 所属機関 | | | |
| | 部　　局 | | | |
| | 連　絡　先 | | | |
| ⑬採用後の受入研究者 | （フリガナ）<br>氏　　名 | | 職名 | |
| | 研　究　者　番　号 | | | |
| | 所属機関 | | | |
| | 部　　局 | | | |
| ⑭採用後の申請者所属研究科正式名 | | | | |

不明な場合は先生に尋ねてください。

部局とは：ex.学術研究院〇〇

博士後期課程の学生の場合
Ex.〇〇研究科

見本

# 別紙

別紙

**特別研究員−ＤＣ申請者⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙**

申請書１ページ「⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等」欄にて、必要事項を記載できなかった場合、その他特筆すべき事項（出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む）がある場合は、本ページ内に全て記載してください。記載する際には、既に入力済の部分も含め全て記載してください。

1ページ目に記載しきれなかった時やその他特記事項がある時のみ使用してください。

※入力忘れがち注意！

申請者登録名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

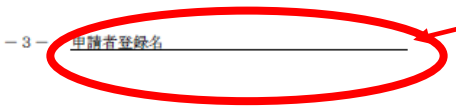
（DC 申請内容ファイル）

**【２】研究計画**　適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。様式の変更・追加は不可です。

**(1) 研究の概要及び研究の位置づけ**　本項目は 1 頁に収めてください。
・まず、研究課題名及び研究の概要を全角 500 字（半角 1,000 字）程度で記入してください。
・続けて、特別研究員として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

研究課題名：●●●●●

文字数の制限が全角500字（半角1,000字）と明記されました。（注： R8年度から修正されました）




※入力忘れがち注意！

**【2】研究計画（続き）** 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。様式の変更・追加は不可です。

**(2) 研究目的・内容等** 本項目は２頁に収めてください。

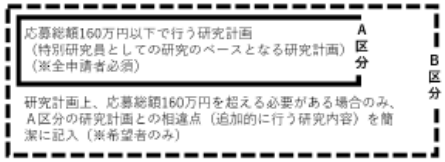
① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、特別研究員奨励費の応募区分（下記（※）参照）に応じて、年次計画を示し、具体的に記入してください。研究計画が想定通り進まなかった場合の対応方法があれば、あわせて記入してください。
③ 研究の特色・独創的な点にも触れて記入してください。（研究の特色・独創的な点の例：先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、総合知への貢献、将来の見通し）
④ 研究計画が所属研究室としての研究活動の一部と位置づけられる場合は申請者が担当する部分を明らかにしてください。
⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することも計画している場合は、具体的に記入してください。

（※）特別研究員奨励費の研究期間が３年の場合の応募総額は（A区分）が240万円以下、（B区分）が240万円超450万円以下（DC1のみ）。２年の場合は（A区分）が160万円以下、（B区分）が160万円超300万円以下。１年の場合は（A区分）が80万円以下、（B区分）が80万円超150万円以下。（B区分については研究計画上必要な場合のみ記入）

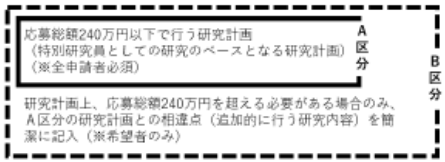
*（注）本行を含め、以下の斜体で記した説明文及び図は申請書を作成する際には消去してください。*

*・（A区分）の研究計画は、必ず記入してください。その上で、（B区分）研究計画上、応募総額が（A区分）の金額を超える必要がある場合のみ、（A区分）の研究計画との相違点（追加的に行う研究内容）を簡潔に記入してください。*

*●応募区分に応じた研究計画のイメージ　DC２で特別研究員奨励費の研究期間が２年の場合*




*●応募区分に応じた研究計画のイメージ　DC１で特別研究員奨励費の研究期間が３年の場合*




*・（A区分）と（B区分）のどちらを選択したかは、特別研究員の選考における審査及び特別研究員奨励費の審査に影響はありません。*

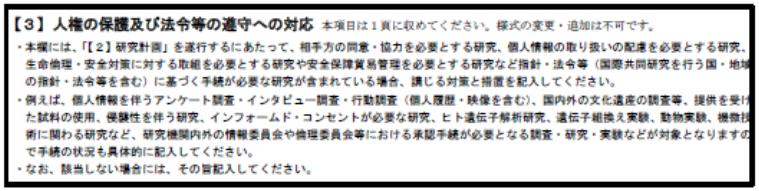
*・海外の研究者との交流、海外での研究など海外研さんに関する計画がある場合には、積極的に記入してください。*

－４－ 申請者登録名

「総合知への貢献」が追加されました。
（注： R8年度から修正されました）

※総合知とは
多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと 。多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うこと。 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、 科学技術・イノベーション成果の社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすこと。 これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高める。（内閣府資料より）

※入力忘れがち注意！



【3】人権の保護及び法令等の遵守への対応 本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可です。

・本欄には、「【2】研究計画」を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究や安全保障貿易管理を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を記入してください。

・例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、インフォームド・コンセントが必要な研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験、機微技術に関わる研究など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記入してください。

・なお、該当しない場合には、その旨記入してください。

研究倫理、遺伝資源、動物実験等該当がある場合は記入し、無い場合は該当無と記入してください。



－6－ 申請者登録名

※入力忘れがち注意！

**【4】研究遂行力の自己分析**　本項目は2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可です。

・日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、研究遂行力について分析してください。

*（注）本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。*

*・根拠となるこれまでの研究活動の成果物（論文等）がある場合には、まず成果物の一覧を掲載し、見出し番号を付してください。続く文章では、適宜成果物に言及しながら（言及の際には見出し番号で示すこと）記入してください。*

*・成果物（論文等）は、それらを同定するに十分な情報を記入してください。*

*・学術論文の場合：著者、題名、掲載誌名、巻号、頁、発行年を記載し、査読の有無を明らかにしてください。投稿中で採録が決定していない場合は、「投稿中」と記載してください。*

*・研究発表の場合：著者、題名、発表した学会名、場所、年・月を記載し、口頭・ポスターの別を明らかにしてください。*

*【成果物一覧の例】*

*1. 論文　・・・・・*

*2. 論文　・・・・・*

*3. 研究発表（口頭）　・・・・・*

*4. 受賞*

*・記入にあたっては、例えば、研究における主体性、発想力、問題解決力、知識の幅・深さ、技量、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの観点から、具体的に記入してください。また、観点を項目立てするなど、適宜工夫して記入してください。*

*・今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素や意欲的に取り組みたいと考えている事項についても記入してください。*

余裕をもって指導教員に相談し、素晴らしい内容にしましょう。

※入力忘れがち注意！

日本学術振興会特別研究員申請者に関する評価書

| | | |
|---|---|---|
| 評価書作成者 | 氏　　名 | |
| | 所属機関名 | |
| | 部 局 名 | |
| | 職　　名 | |
| 申請者との関係 | | |

申請者の(1)「研究者としての強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、具体的に入力してください。
※特筆すべき事項（出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む）がある場合には、記載してください。
※入力にあたっては、アンコンシャス・バイアスをできるだけ排除するようにしてください。

(1) 研究者としての強み（研究者としての将来性を判断する上で参考になると思われる項目を含む）
※半角 3,000 文字

見本

(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素
※半角 1,000 文字



申請者登録名

DC

時間的な余裕をもって指導教員に相談し、書いてもらいましょう。

参考：評価者はこんな点を見ています
- **研究遂行能力・能力の高さ:** これまでの研究業績や学位論文の質の高さ。
- **研究の独創性・着想:** 申請者の視点やオリジナリティ。
- **研究計画の妥当性:** 計画が実現可能で、学術的価値があるか。
- **将来性（将来の展望）:** 優れた研究者となる見込みがあるか。
- **主体性・勤勉性:** 研究に取り組む姿勢や積極性。

※入力忘れがち注意！

【2】研究計画　別添

研究経費とその必要性

特別研究員奨励費（特別研究員）
（金額単位：千円）

応募区分

| | 年度 | 研究経費（千円） | 使用内訳（千円） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 設備備品費 | 消耗品費 | 旅費 | 人件費・謝金 | その他 |
| 研究経費（千円未満の端数は切り捨てる） | 2027年度 | | | | | | |
| | 2028年度 | | | | | | |
| | 2029年度 | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 総計 | | | | | | |

| 年度 | 設備備品費の明細 | | | | | 消耗品費の明細 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 品名・仕様 | 設置機関 | 数量 | 単価 | 金額 | 事項 | 金額 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

設備備品費、消耗品費の必要性

見本

分かる範囲で、仕様・型番を記載すること。

※入力忘れがち注意！



申請者登録名：

（金額単位：千円）

| 年度 | 国内旅費の明細 | | 外国旅費の明細 | | 人件費・謝金の明細 | | その他の明細 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事項 | 金額 | 事項 | 金額 | 事項 | 金額 | 事項 | 金額 |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | |

研究費の応募・受入等の状況

（１）応募中の研究費

特別研究員奨励費（特別研究員）

| 研究者氏名 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名） | 研究課題名（研究代表者氏名） | 役割 | 2027年度の研究経費（期間全体の額） | 研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等（左記の研究課題を応募するに当たっての所属組織・役割）（例研究費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額） |
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |

見本



※システムの内容が自動表示される。

（２）受入予定の研究費

| 資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名） | 研究課題名（研究代表者氏名） | 役割 | 2027年度の研究経費（期間全体の額） | 研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由等（左記の研究課題を受入れるに当たっての所属組織・役割）（科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額） |
|---|---|---|---|---|
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |
| | | | （千円） | |

見本



該当するものがあれば入力すること。

皆様全員の採択をお祈りしております。

研究協力課　一同